

平成30年度
北海道博物館事業実績報告書
(平成30年4月～平成31年3月)

平成31年4月

北海道博物館

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	2
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	2
(2)	企画展示の開催	3
(3)	アイヌ文化に関する展示事業【アイヌ研】	4
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	6
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化【アイヌ研】	7
4	北海道開拓の村の整備	8
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	9
(2)	教材の充実	10
(3)	はっけん広場の運営	11
(4)	アイヌ文化に関わる教育普及事業【アイヌ研】	12
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	12
7	道民参加型組織の整備	12
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	13
(2)	周辺環境の整備	14
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	14
9	広報	
(1)	広報活動の強化	15
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	16
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	17
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	18
(2)	博物館交流の促進	18
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信【アイヌ研】	18
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	19
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	19

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】	20
1.3 人材育成機能の強化	
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	20
(2) 外来研究員の受入	21
(3) 派遣研修	21
1.4 研究成果の発信と社会貢献	
(1) 学術刊行物などの刊行	21
(2) 学会への発信	22
(3) 職員の対外貢献	22
(4) 外部機関との事業連携	22
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	22
(6) アイヌ文化研究の発信【アイヌ研】	23

以下については、平成27年度の北海道立総合博物館協議会の答申を受けて、平成28年度から年度計画の中に追加したものである。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成	24
(2) 研究センター内の意思決定機関の育成	24
(3) 道庁の支援体制の育成	25

■別添資料 平成30年度アイヌ民族文化研究センター事業計画（抜粋）

1 展示事業	
1) 総合展示	29
2) 企画展等	29
3) 巡回展	30
2 調査研究事業	30
3 資料・情報の収集・整備事業	31
4 資料・情報等の公開・提供事業	
1) 資料の公開	32
2) 情報発信	
(1) 学術情報の集約	32
(2) 発信基盤の整備	32
(3) 学習・伝承活動への支援	33
5 成果の普及事業	
1) 教育普及	33
2) 研究成果の提供	34
6 その他	
ガバナンス態勢の育成 研究センター内の意思決定機関の育成	34

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

【年度目標】

- ① 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- ② 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。
- ③ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。
- ④ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。

【事業実績】

- ① 蝦夷地場所請負人関係の文書資料（フラーシェム・N・良子資料）230件、研究プロジェクトに基づく貝化石など90件、継続的に収集している植物腊葉標本20件などを収集した。
上記以外には、資料の受入の可否を審査する「資料審査会」で18件の受入希望資料について検討し、14件の資料について調査・収集を行った。
- ② 今年度調査・収集した14件の資料のうち、7件が収蔵資料として受入決定・資料登録を終え、5件が収蔵資料データベースに登録済みであり、4件が既に展示等に活用された。
- ③ 来年度以降の一資料括目録の刊行に向けて資料整理中である。
- ④ 事務に関わる書類一式を一新（書類データの形式・様式の整備）できるよう、試行した。

判断数値	目標値	実績値
受入資料件数	300件	410件
資料審査会の実施回数	12回	11回

(2) 収蔵機能の強化

【年度目標】

- ① 収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。
- ② 災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- ③ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

【事業実績】

- ① 収蔵資料データベースの登録方法を整理した。データベースの今年度新規登録件数は、4,195件である。
- ② 平成30年9月の北海道胆振東部地震では、北海道博物館協会を通じて、厚真町や安平町などに当館職員を派遣し、保存処理に必要な資材を提供した。
- ③ 大型資料を整理して、収蔵庫の棚1列分を確保した。

判断数値	目標値	実績値
資料登録件数（累計）	183,480件	183,590件

(3) 資料保存環境の維持

【年度目標】

- ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

【事業実績】

- ・ IPM（薬剤だけに頼らない虫菌害等の防除対策）について、下記のとおり、年度を通して実施した。

判断数値		予定・計画回数 (頻度)	実施回数 (頻度)
資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数		12回 (月1回)	12回 (月1回)
IPMに関わる作業の実施回数		400回	461回
IPM 関連 作業の内訳	① 捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）	—	12回
	② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査		1回
	③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査		3回
	④ 担当職員による収蔵庫清掃		12回
	⑤ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除		1回 (3日間)
	⑥ 新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業		恒常的に実施
	⑦ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理		14回
	⑧ 収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）		417回
	⑨ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応）		1回

（４）収蔵資料の利用への対応

【年度目標】

- ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

【事業実績】

- ・ 特別観覧申請件数 66 件、模写品等使用申請件数 169 件、資料貸出件数 31 件 769 点だった。

判断数値	目標値	実績値
特別観覧（収蔵資料の熟覧）承認申請数	50 件	66 件
模写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数	130 件	169 件
資料貸出資料件数	20 件	31 件

2 展示

（１）総合展示室の運営

【年度目標】

- ① 総合展示の定期的な入替えを実施する。
- ② 総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。
- ③ すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- ④ 総合展示のメンテナンスに努める。
- ⑤ 総合展示の防犯体制の見直しを進める。
- ⑥ 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

【事業実績】

- ① 総合展示内で定期的な資料入替を行っている「クローズアップ展示」の展示替えを計画どおりに、全7か所で合計24回実施した。
上記以外の、総合展示室内の展示資料入替は48件であった。
- ② 企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」の期間中に総合展示室と特別展示室をめぐるスタンプラリーを実施した。また、巡回展「生命のれきし」の期間中、同展に関連した資料展示を総合展示室内にも設置した。
- ③ スマートフォン展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を継続して運用した。
- ④ 展示ケース・設備等の破損を指定管理者とともに点検した（計7回）。
- ⑤ 総合展示室の定期的な巡回・点検、防犯カメラによる特別展示室のモニタリングを実施し防犯に努めた。
- ⑥ 子ども向けクイズ・スタンプワークシートを配布した。また、「生命のれきし」展の期間中に「さわれる化石資料」の展示コーナーを設置した。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成30年度目標値	平成30年度実績
総合展示室利用者数	72,400人	99,315人
うち外国人利用者数	4,000人	5,414人

判断数値	目標値	実績値
クローズアップ展示の件数	24件	24件
総合展示室の展示品の入替件数	40件	48件

(2) 企画展示の開催

【年度目標】

- ① 北海道150年を記念した魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。
- ② 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ③ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

【事業実績】

- ① 北海道150年を記念した大規模かつ魅力的な特別展として「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」を、他館との共同企画・巡回を含めた、道内外博物館連携・企業連携によって開催した。
- ② 研究成果を反映した展示、道民参加型の展示として、第11回企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」を開催した。また、収蔵資料を積極的に公開する展示として、新着の一括資料をもとに第12回企画テーマ展「りんご農家の道具」を開催した。
- ③ 展示計画を議論する「展示ワーキングチーム」会議で、次年度以降の企画展示の計画を策定した。また、平成31年度の特別展開催に向けて「展示構成チーム」を組織し、会議や事前調査を進めた。

特別展示室の利用者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成30年度目標値	平成30年度実績
特別展示室利用者数	80,000人	88,089人

判断数値	目標値	実績値
企画展の利用者数と満足度	80,000人／90%	88,089人／79.7%
その他、館内外で実施した展示件数	2件	3件

特別展・企画テーマ展名称	期間	実績
【特別展】 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎	平成30年6月30日～8月26日	44,477人
【企画テーマ展】 野幌森林公園いきもの図鑑	平成30年4月27日～6月3日	12,060人
【企画テーマ展】 りんご農家の道具	平成30年9月21日～11月25日	10,085人
【企画テーマ展】 アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ	平成31年2月8日～4月7日 (※実績値は3月31日までの利用者数)	7,185人
【巡回展】 生命のれきし	平成30年12月8日～平成31年1月20日	13,101人

その他の展示	期間	実績
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2018 層雲峡	平成30年8月21日～9月30日	8,792人
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名調査資料から～ 2018 標津	平成30年10月6日～10月21日	2,164人
【道民参加型展示】 北海道化石会によるアンモナイト化石	平成30年4月1日～平成31年3月31日	—

(3) アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】

1) 総合展示

【年度目標】

以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。
- 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化 Q&A」コーナーの運用

- 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替え

- コーナー及び資料の種別に応じた入れ替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。
- iPadを利用して過去に展示してきた衣服(晴れ着)を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。

【事業実績】

- 総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」におけるクローズアップ展示3、4で計6回の展示を実施し、シリーズ化した展示テーマを設け、内容の充実に取り組んだ。
展示シナリオ及び資料の事前検討については、おおむね期日に即した検討を実施した。
- 更新準備はほぼ整えており、8月には博物館実習の課題に採り入れる等の活用も試みたが、実際の更新はなお来年度の課題である。

- ③ 総合展示資料の定期的な入替えは、衣服及び関連資料等（3～6か月毎）、筆録ノート、レコード等（1年毎）、装身具・祭具等（その他）に区分し、計画的に実施することとしたが、今年度は一括して計8件の入替えを実施した。

iPadを利用した、衣服を紹介する展示は、写真の調達と機器の設置に向けた準備を進めた。

判断数値	目標値	実績値
① クローズアップ展示	(クローズアップ展示3、4各3回)	6回 (各3回)
② アイヌ文化Q&A	更新年間4回 (質問8件)	0回
③ 総合展示資料入替	計6回	計3回(8件)
・ 衣服及び関連資料	4回	1回(4件)
・ 装身具・祭具等	1回	1回(2件)
・ ノート等	1回	1回(2件)

2) 企画展等

【年度目標】

- ① 平成31年度以降の企画テーマ展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ② 既にテーマを定めている「地名から見える北海道(仮)」については、北海道命名150年の翌年であり、象徴空間開設の前年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

【事業実績】

- ① 平成30年4月8日まで開催した第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」では、冬季の企画テーマ展としては比較的多くの来場者を得て、満足度も90%を超えた。
- 館内における平成31、32年度の企画展示の策定に当たり、アイヌ文化が軸となるテーマやアイヌ文化を柱の一つとするテーマを提案し、計画案に反映させることができた。
- ② 平成31年開催予定の展示会は「北の手仕事(仮)」「アイヌ語地名と北海道(仮)」とそれぞれテーマを定め、計画を策定し、出展者との調整や開催要項の策定等の準備を着実に進めた。

判断数値	実績値
第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」の来場者数	7,250人
第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」の満足度	97.1%

※全開催期間(平成30年2月2日～4月8日)を通しての実績

3) 巡回展

【年度目標】

- 平成30年度の巡回展を開催し、平成31年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成29年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

【事業実績】

- 第4回アイヌ文化巡回展を上川町(層雲峡)で、第5回アイヌ文化巡回展を標津町で、いずれも「地名」をテーマに開催した。

平成31年度以降の開催計画については、候補地があるものの、策定は今後の課題である。

巡回展名称	実績	
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名調査資料から～ 2018 層雲峡	平成30年8月21日～9月30日	8,792人

【巡回展】 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名調査資料から～ 2018 標津	平成 30 年 10 月 6 日～10 月 21 日	2,164 人
--	----------------------------	---------

判断数値	目標値	実績値
巡回展の満足度	回答者数 71 人／ 96.6%	回答者数／188 人 94.3%

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

【年度目標】

- ① 新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト 5 課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト 3 課題を実施する。最終年度となる 4 課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。
- ② 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。
- ③ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。
- ④ 月 1 回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。
- ⑤ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。
- ⑥ その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。

【事業実績】

- ① 「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト (5 課題)、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト (3 課題) を、平成 30 年度に立ち上げた 2 課題を含めて実施した。このうち、今年度限りで予定の最終年度である 4 課題について、それぞれ成果のとりまとめを図るとともに、翌年度に向けた新規課題立ち上げの準備を進めた。
- ② 調査研究への道民参加として、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」の共同調査の延長で企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」を開催した。
- ③ サハリン州郷土博物館から 2 名の研究者を招へいし、北海道内において昆虫・鳥類などに関する生物学的な共同調査を実施した。
ロイヤル・アルバータ博物館と友好館に関する覚書 (5 年間) を再び取り交わした。
- ④ 月 1 回の館内定例研究報告会を定例的に開催した。外部講師の招へいについては実現に至らなかった。
- ⑤ 科学研究費補助金については、前年度からの継続 7 件に加え、新規 5 件、計 12 件を獲得し、研究を実施し、随時その成果を発表した。また、12 件の新規課題の申請をおこなった。
- ⑥ 科学研究費補助金以外の外部資金については、新規に 5 件の申請を行ない、うち 1 件の採用を得た。

<p style="text-align: center;">「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト（5 課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野幌森林公園の生物インベントリー調査（27～30 年度）（自然研究 G） ・北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用（30～34 年度）（自然研究 G） ・地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用（27～30 年度）（歴史研究 G） ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査（27～31 年度）（生活文化研究 G） ・モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究（30～34 年度）（博物館研究 G）
<p style="text-align: center;">「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト（3 課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元（27～31 年度）（自然研究 G） ・北方四島の考古学的研究（27～30 年度）（歴史研究 G） ・北海道におけるツルの自然史と文化史（27～30 年度）
<p style="text-align: center;">「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2 課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州）（27～31 年度） ・寒冷地の自然と適応－博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究－（カナダ・アルバータ州）（27～31 年度）

（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】

【年度目標】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の 2 つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ② 平成 29 年度で終了した個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ③ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ④ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【事業実績】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」を、それぞれの個別課題に沿って進め、計 4 件の成果を発表した。
- ② 平成 29 年度で終了した個別課題については、成果を踏まえたうえで新たな課題を設定した。
- ③ アイヌ文化研究において内在する課題と海外共同研究との整合性や棲み分けなど、引き続き問題が残っているが、アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民族との関わりのあり方について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地域差等に関する実物資料や伝承の比較等の課題の検討も始まっている。
- ④ 日本学術振興会科学研究費補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員が研究代表者として獲得した件数は 3 件となった。また、サントリー文化財団の助成金（平成 29 年 8 月～平成 30 年 7 月）による調査研究では、4 月に余市町において公開研究報告会「余市のアイヌ文化を考える」を開催し、また引き続き平成 31 年 7 月までの助成を獲得した。

<p style="text-align: center;">アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（4 課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究（29～34 年度） ・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究（24～31 年度） ・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査（26～30 年度） ・道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部（28～31 年度）
--

アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（4 課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究（28～31 年度） ・教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代（28～31 年度） ・アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（28～31 年度） ・アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）（26～31 年度）

4 北海道開拓の村の整備

【年度目標】

- ① 平成 30 年度北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物の補修工事等を実施する。工事は地方創生拠点整備交付金を使用し、「ヘリテージツーリングを担う人材育成拠点整備事業」として 2 棟の補修工事等を実施する。
- ② 平成 31 年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。
- ③ 北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について調査・検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。
- ④ 北海道 150 年に向けた「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」をもとに北海道百年記念施設のあり方について検討する。

【事業実績】

- ① 旧若狭家たたみ倉、旧龍雲寺の補修工事、旧近藤染舗、旧小樽新聞社の老朽度調査を実施したほか、平成 30 年 9 月の台風 21 号で被害を受けた歴史的建造物 8 棟の改修工事、北海道胆振東部地震で被害を受けた歴史的建造物 2 棟の改修工事等を進めた。
- ② 平成 31 年度北海道開拓の村施設整備計画を策定した。
- ③ 内部展示の改修・改訂整備計画策定のための調査を行った。
- ④ 北海道百年記念施設のあり方については、本庁のガバナンス体制で検討が進められ、12 月に「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」が策定された。

主な建造物等改修工事	<ul style="list-style-type: none"> ・旧若狭家たたみ倉補修工事（工事期間：平成 30 年 7 月～10 月） ・旧龍雲寺補修工事（工事期間：平成 30 年 7 月～12 月） ・札幌農学校寄宿舎（恵迪寮）展示改修（期間：平成 30 年 10 月） （一般社団法人恵迪寮同窓会による、北寮の展示写真パネル 12 点の更新） ・平成 30 年台風 21 号被害対応 <ul style="list-style-type: none"> ・開拓の村建造物災害被害応急処置工事（平成 30 年 9 月） ・開拓の村建造物改修工事（平成 30 年 11 月～平成 31 年 3 月） （旧有島家住宅／旧本庄鉄工場／旧ソーケシュオマバツ駅通所・厩舎／旧近藤染舗／旧武岡商店／旧信濃神社 手水舎／旧山本組消防番屋／旧農商務省滝川種羊場機会庫） ・北海道胆振東部地震対応 地震被害改修工事 <ul style="list-style-type: none"> 旧三ツ河本そば屋石蔵（期間：平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月） 旧青山家漁家住宅（母屋）（期間：平成 31 年 2 月～3 月） ・開拓の村ビジターセンター屋根飾り手摺震災対応応急措置工事 （工事期間：平成 30 年 12 月） ・台風 21 号樹木被害等処理（工事期間：平成 30 年 10 月、平成 31 年 3 月） ・野幌森林公園内台風 21 号樹木被害等処理 （工事期間：平成 30 年 10 月、平成 31 年 3 月） ・野幌森林公園街路灯台風被害改修工事（工事期間：平成 31 年 1 月～3 月）
------------	---

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

【年度目標】

- ① 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ② 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ③ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。
- ④ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。
- ⑤ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。
- ⑥ 利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。
- ⑦ 展示解説を要望する来館者の対応について検討する。

【事業実績】

- ① 総合展示室内での展示解説は、「ハイライトツアー」を通年実施した。祝日の総合室内イベントとして「ハンズオン」を12件、「ミュージアムトーク」を11件実施した。
- ② 北海道の自然・歴史・文化を気軽に学べる行事はいずれも計画的に実施でき、子ども向けの「ちゃれんが子どもクラブ」は12件開催、参加者数は621人だった。
- ③ 調査研究成果を活用した講座・講演会を21回、計画的に実施した。
- ④ 「グループレクチャー」は157件実施して7,844人の参加、「はっけんプログラム」は、115件実施して参加者数は7,051人であった。また、学校教員対象の研修会を7月・8月にそれぞれ実施した。
- ⑤ 文化の日に講演会、アイヌ音楽ライブなど、複数のイベントを複合的に実施した。また、1～2月に「バックヤードツアー」を計4回実施した。
- ⑥ 利用者の意見から行事申込の簡便化を図り、「行事申込登録者制度」を導入した。また、会場で膝掛けの貸出も開始した。
- ⑦ 総合的な展示解説という来館者からの随時の要望には、依然応えられていない。

イベントの参加者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設定内容	平成30年度目標値	平成30年度実績
イベント参加者数	7,200人	17,342人

(イベント参加者数 内訳)			
体験型プログラム	373人	ハンズオン	2,597人
ちゃれんが子どもクラブ	621人	ミュージアムトーク	298人
講座・講演会	1,741人	ハイライトツアー	1,453人
特別イベント	3,576人	ちゃれんがラリー	914人
その他のイベント	2,997人	はっけんイベント	2,975人

グループレクチャー			
(内訳)	判断数値	平成30年度目標値	平成30年度実績
	実施件数	150件	157件
	参加人数	7,200人	7,844人

メニュー別実施回数		
(内訳)	①総合展示ダイジェスト	66回
	②北海道の生き物	2回
	③北海道の化石	1回
	④アイヌ文化の世界	44回
	⑤北海道の歴史	8回
	⑥北海道の暮らし	10回
	⑦北海道の産業	1回
	⑧博物館・学芸員の仕事	5回
	⑨北海道博物館のあらまし	2回
	⑩その他	18回

はっけんプログラム			
	判断数値	平成30年度目標値	平成30年度実績
	実施件数	120件	115件
	クラス数	—	224クラス
	参加人数	7,000人	7,051人

プログラム別実施回数		
(内訳)	①クマってこわい? ヒグマについてもっと知ろう	4回
	②アンモナイトで発見!	2回
	③やってみよう アイヌ文化	145回
	④縄文文化の暮らし	23回
	⑤くらべてみよう! -くらしの道具 いまむかし-	46回
	⑥その他	4回

判断数値	目標値	実績値
ちゃれんが子どもクラブの実施件数/参加者数	12件/400人	11件/621人

(2) 教材の充実

【年度目標】

- ① すでに開発・運用している「ちゃれんがラリー」などを含め、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる多様な教材の開発について検討する。
- ② より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。
- ③ 学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材の開発について検討する。
- ④ 「ちゃれんがラリー」の開発、多言語解説の充実化、プロモーションビデオの制作などが一定程度実現したなかで、障がい者向けの教材開発なども含め、あらためてあらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法を策定する。

【事業実績】

- ① 「ちゃれんがラリー」を継続的に運用するとともに、来年度からの実施に向け新たな「ハンズオン」メニューを開発した。
- ② 多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスを引き続き展開するとともに、音声データの追加導入について実験を行った。
- ③ 博物館を学校教育で利用する教員のための「北海道博物館学校利用ガイド」の改訂版を作成し、各学校に配布した。

また、学校団体が総合展示をより効果的に学べるワークシートを開発し、北海道博物館ホームページからダウンロードできるようにした。

- ④ 視覚障がい者にとって利用しやすくなる博物館づくりのために、北海道札幌視覚支援学校の協力のもと、意見交換を重ね、今後恒常的に必要となる最低限の機器・資材を整備した。

(3) はっけん広場の運営

【年度目標】

- ① 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ② はっけん広場をさらに魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場のさらなる充実化にむけた取組を継続して行う。
- ③ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- ④ 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ⑤ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。
- ⑥ 学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施するとともに、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。
- ⑦ 引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。
- ⑧ はっけん広場の魅力を高めることはもちろん、館外への広報および来館者への周知を強化するとともに、来館者をはっけん広場に導く工夫を検討する。

【事業実績】

- ① 自然、考古、アイヌ文化、生活文化などを中心に約 40 種類の「はっけんキット」を製作・常備し、来館者の自発的な発見を促すための空間として「はっけん広場」を運営した。
- ② 昨年度に整備した環境を、今年度も維持した。
- ③ 学校団体利用者向けの「はっけんプログラム」は 6 つのメニューを整備のうえ、各種団体の要望に応じて実施した。
- ④ 「はっけんイベント」は、毎週土曜日、日曜日、祝日開館日を中心に実施した。
- ⑤ 新たな「はっけんキット」の開発は 0 件であった。
- ⑥ 貸出し用の「はっけんキット」の整備と貸出制度の確立にむけた取組を進めている。
- ⑦ 学校教員を対象とした「教員のための博物館の日 in 札幌」（7 月 26・27 日）及び「博物館教育プログラム研修会」（8 月 17 日）の実施により、学校団体にとってより充実したはっけん広場の運営について検討を行った。
- ⑧ 利用者からの意見、企画・運営の反省点をまとめ、次年度以降の運営形態を一部改変し、来年度以降の改善・充実を試みた。

はっけん広場利用者数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 30 年度目標値	平成 30 年度実績
はっけん広場利用者数	20,000 人	21,214 人

判断数値	目標値	実績値
はっけんプログラムの実施件数	120 件	115 件
はっけんイベント参加者数	2,500 人	2,975 人
はっけんキットの貸出し件数	5 件	5 件

(4) アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】

【年度目標】

- ① 前年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ② グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【事業実績】

- ① 平成 30 年度に研究センター職員が館で実施した講座・ワークショップ・ミュージアムトーク等の教育普及事業は 7 件（このほか平成 30 年 9 月の胆振東部地震による臨時休館等にもなう中止が 1 件）であった。
アイヌ文化巡回展関連講座は今年度は実施しなかったが、巡回展は 2 ヶ所（層雲峡、標津町）で実施し、アンケート結果でも満足度が高かったことから、普及事業としての巡回展は一定の効果を上げることができたと考えられる。
- ② アイヌ文化関連のグループレクチャーの件数は昨年度より増加しており、かつ、館全体としての増加傾向を上回る割合での増加となっているが、内容については、グループ全体での検討や情報共有の機会はとくに設けられなかった。

判断数値	目標値	実績値
グループレクチャーの実施件数	アイヌ関係 35 件	44 件
はっけんプログラムの実施件数	アイヌ関係 125 件	145 件
上記以外に行った館内イベント件数	0 件	0 件

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

【年度目標】

- ① 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ② 館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。
- ③ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

【事業実績】

- ① 文部科学省委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」によって道内各地で開催された研修会を含め、館内外での研修会等へは、13 件 39 名が参加した。
- ② 研修で得た知識等を共有する仕組みづくりについて検討を進めた。
- ③ 「北海道博物館・北海道開拓の村 博物館教育プログラム研修会」を実施した。また、「教員のための博物館の日」では、当館の利用に関するレクチャー等を行った。
昨年度に続き「平成 30 年度初任段階教員研修」について 5 校 5 名を受け入れた。

判断数値	目標値	実績値
博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数	4 件 7 人	13 件 39 人
当館が実施する教員対象の研修会への参加人数	40 人	145 人

7 道民参加型組織の整備

【年度目標】

- ① 第 1 期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）の事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する（館長との意見交換の場）。

- ② 道民参加の促進に向け、ボランティア組織や北海道立総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。
- ③ 全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業などの推進と強化を図る。それにあたっては、文化庁などからの外部資金の獲得を目指す。
- ④ 道民参加型の事業を検討・実施する。

【事業実績】

- ①・② 道民参加型組織の創設にむけ、試行的に図書室における「図書室支援員」を導入した。
- ③ 北のミュージアム活性化実行委員会が中心となって、文化庁芸術振興費補助金「地域と共動した美術館・歴史博物館創造活動支援事業（地域の美術館・歴史博物館を中核とする文化クラスター形成支援事業）」の助成を受け、「多様な来場者の気持ちを活かす博物館促進事業」を実施した。
- ④ 道民参加の調査活動「野幌森林公園におけるインベントリー調査」の成果展示として、企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」を開催した。

8 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

【年度目標】

- ① アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。
- ② オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ③ 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。

【事業実績】

- ① 車いす1台を増設した。
- ② オリジナルグッズの開発・販売は、総販売品目330種、今年度からの追加品目34種である。
- ③ 記念ホール等の施設の活用は下記のとおりであった。

施設利用（記念ホール）（他団体利用、イベント等）			
第4回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」第2会場 （子ども向け体験展示）	主催	北海道博物館	
	開催日	平成30年6月30日～8月26日	
ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	主催	北海道博物館	
	開催日	平成30年11月3日	
視察受入（海外、道議会等）の会場として活用	—	※随時受入	

施設利用（講堂）（他団体利用、イベント等）			
野幌森林公園火災予防対策会議・管理運営協議会	主催	—	
	開催日	平成30年4月27日	
教員のための博物館の日	主催	一般財団法人北海道歴史文化財団ほか	
	開催日	平成30年6月26日～6月27日	
第4回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」開会式	主催	北海道博物館	
	開催日	平成30年6月30日	
職業体験実習	主催	北海道博物館	
	開催日	平成30年10月17日	
北の みゆぜふえす	主催	北のミュージアム活性化実行委員会	
	開催日	平成30年10月28日	

シンポジウム「地域の情報拠点としての博物館」	主催	道央地区博物館等連絡協議会ほか
	開催日	平成 31 年 1 月 18 日
日本博物館協会 平成 30 年度研究協議会	主催	公益財団法人日本博物館協会
	開催日	平成 31 年 3 月 7 日～8 日

施設利用（グランドホール）		
関屋敏隆絵本原画展 絵本『北加伊道 松浦武四郎のエゾ地探検』	主催	北海道博物館
	開催日	平成 30 年 6 月 30 日～8 月 26 日
アイヌ民族の伝統芸能講演（千歳アイヌ文化伝承保存会）	主催	北海道博物館
	開催日	平成 30 年 7 月 1 日
アイヌ民族の伝統芸能講演（平取アイヌ文化保存会）	主催	北海道博物館
	開催日	平成 30 年 7 月 21 日
全国知事会 弦楽四重奏	主催	総合政策部地域振興局地域政策課
	開催日	平成 30 年 7 月 25 日
アイヌ民族の伝統芸能講演（帯広カムイトゥウポボ保存会）	主催	北海道博物館
	開催日	平成 30 年 8 月 19 日
北海道博物館におけるアイヌの人々の遺骨にかかる慰霊行事	主催	北海道
	開催日	平成 30 年 11 月 19 日
北海道化石フェスト' 2019 at 北海道博物館	主催	総合政策部地域振興局地域政策課
	開催日	平成 31 年 1 月 13 日

（２）周辺環境の整備

【年度目標】

- ① サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。
- ② 屋上スカイビューは、4 月 29 日から 9 月 23 日までの祝日開館日（計 8 日間）の 10:00～16:00 に開放する。

【事業実績】

- ① サインの統一化については、設置費用の問題等もあることから検討は進んでいない。
- ② 屋上スカイビューの開放を 4 月 29 日～9 月 24 日までの祝日（計 8 日）に実施し、2,997 人の来場者があった。

（３）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

【年度目標】

- ・ ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

【事業実績】

- ・ 指定管理者と連携し、北海道みんなの日（7 月 17 日）に北海道博物館及び開拓の村の無料開放を実施した。

北海道みんなの日（7 月 17 日） 利用者数	
北海道博物館（総合展示）	615 人
北海道開拓の村	1,006 人

- ・ 博物館と自然ふれあい交流館との連携事業として、自然観察会（計 5 回）を実施した。
- ・ 施設間の交通アクセスの向上のため博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行した。（運航日：5 月 3 日～6 日、9 月 15 日～17 日）。
- ・ 野幌森林公園施設（北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館）に対する利用者満足度調査を平成 30 年 11 月 28 日から平成 31 年 1 月 23 日にかけて実施した。
- ・ 台風 21 号による森林公園内の風倒木被害について、関係機関と連携しながら迅速に処理を進め、公園内遊歩道の早期開放に努め、10 月 3 日に立入禁止の解除となった。
- ・ 各施設の管理運営に関する連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図るため、北海道博物館と指定管理者による北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議を毎月 1 回開催した。
- ・ 野幌森林公園の関係機関相互の情報交換及び連絡調整、自然公園における保護と利用の促進に必要な施策実施のため「野幌森林公園管理運営協議会」を設置し、会議を開催した。

判断数値	目標値	実績値
野幌森林公園内施設の管理運営にかかる連絡会議の実施件数	12 件	12 件
一体的に実施した広報の件数	10 件	10 件

9 広報

（1）広報活動の強化

【年度目標】

- ① あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。
- ② 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。
- ③ 北海道博物館プロモーションビデオを道内外のさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。
- ④ 各媒体からの照会に伴う広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。
- ⑤ 海外に向けた情報発信を強化する。
- ⑥ 6 か国語対応のプロモーションビデオについて、より多様な場面での活用を図る。
- ⑦ 修学旅行を含め、学校団体の誘致を図る。
- ⑧ 平成 29 年度要覧を刊行する。

【事業実績】

- ① 新聞、雑誌、テレビなどで掲載・放送された件数は、261 件であった。また、ホームページのアクセス数（トップページ）は 259,947 件であった。
- ② 愛称とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体などに活用したが、他機関の媒体への活用件数は伸びていない。
- ③・⑥ プロモーションビデオは、昨年度と同様、北海道博物館赤れんがサテライトのデジタルサイネージなどで活用した。
- ④ 各媒体からの照会に対する情報提供を行うとともに、道政記者クラブへの情報提供など道の広報部門と連携した広報や、特別展や企画テーマ展の開催にあわせたマスコミやブロガーに向けた展示説明会を開催した。
- ⑤ 北海道経済部観光局などと連携し、在札幌の各国領事館などを対象に PR 活動を行った。
- ⑦ 道外の高等学校を対象とした修学旅行の事前学習会や、道外の旅行会社と学校教員を対象とした北海道教育旅行説明会に当館職員を派遣し、PR 活動を行った。
- ⑧ 平成 28 年度および平成 29 年度要覧を、合冊で平成 30 年 11 月 30 日に刊行した。

ホームページのアクセス数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容		平成 30 年度目標値	平成 30 年度実績
ホームページのアクセス数（トップページ）		160,000 件	259,947 件
ホームページのアクセス数 月別件数			
4 月	18,993	8 月	40,525
5 月	21,478	9 月	20,553
6 月	23,098	10 月	18,337
7 月	34,220	11 月	16,281
		12 月	17,280
		1 月	18,740
		2 月	15,044
		3 月	15,398

広報媒体件数	新聞	220 件
	雑誌	30 件
	テレビ	31 件
	ラジオ	4 件

愛称およびロゴマークの掲載	新聞	3 件
	雑誌	2 件
	外部機関のチラシ	1 件

内容	計画（頻度）	実施回数（頻度）
森のちゃれんがニュースの発行	4 回（3 か月に 1 回）	4 回（3 か月に 1 回）
行事あんないの発行	2 回（半年に 1 回）	2 回（半年に 1 回）
要覧 2017 の発行	1 回（年 1 回）	1 回（年 1 回）
特別展ポスター・チラシ 作成	1 回（特別展開催時）	1 回（特別展開催時）
企画テーマ展 ポスター・チラシ作成	3 回（展示会開催時）	3 回（展示会開催時）

判断数値	目標値	実績値
入館者数／うち外国人	88,000 人／うち外国人 5,720 人	99,315 人／うち外国人 5,414 人
学校団体の利用者数／件数	20,500 人／280 件	24,140 人／338 件
広報媒体の件数	300 件	261 件
愛称およびロゴマークの活用件数	15 件	6 件

（2）赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

【年度目標】

- ① 定期的な提供する情報の更新、利用者と直に接する広報活動を展開などを含め、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する。
- ② 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、定量的に把握するとともに、今後の赤れんが庁舎活用策についての検討を行う。
- ③ 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

【事業実績】

- ① 「北海道博物館赤れんがサテライト」において、今年度も継続して、特別展や企画テーマ展など、タイムリーな情報の更新も含めた北海道博物館の紹介と、地域情報の発信を行った。だが、利用者と直に接する本格的な広報活動は、「カルチャーナイト」などにとどまり、目標値を下回っている。
- ② 「北海道博物館赤れんがサテライト」に配置している北海道博物館・北海道開拓の村割引券の使用率などのデータを収集した。

- ③ 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画した。

赤れんがサテライト利用者数	695,905 人
---------------	-----------

判断数値	目標値	実績値
「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数	5 回	9 回
「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数	5 回	2 回

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

【年度目標】

- ① 北海道立総合博物館協議会（2 回）と専門部会（1 回）などの実施と運営を行う。
- ② 内部評価の実施と運営を行う。
- ③ アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチの実施とその方法の検討を行う。
- ④ 第 2 期中期目標・計画（平成 32～36 年度）を検討する。

【事業実績】

- ① 北海道立総合博物館協議会、同アイヌ民族文化研究センター専門部会を計画どおり開催した。
- ② 内部評価は、事業実績のとりまとめ、内部評価委員会を計画どおりに実施した。
- ③ 総合展示・企画展示の満足度については、次のとおりアンケート調査を実施したが、オーディエンス・リサーチ（来場者からの聞き取り調査）は、実施しなかった。
- ④ 第 2 期中期目標・計画案の具体的な検討を進めるまでには至らなかった。

利用者の満足度の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 30 年度目標値	平成 30 年度実績
利用者満足度	80%	87.1%

展示会	満足度	満足度調査の内訳				
		たいへん満足	満足	不満足	たいへん不満	
総合展示	H30.4.27-6.3	97.9%	64	79	2	1
	H30.6.30-8.26	96.8%	141	163	6	4
	H30.9.21-11.25	92.6%	54	34	3	4
	H30.12.8-H31.1.20	95.1%	57	59	5	1
	H31.2.8-4.7	96.3%	43	34	1	2
特別展「松浦武四郎」	85.6%	273	228	33	6	
企画展	野幌森林公園 いきもの図鑑	86.2%	95	98	3	6
	りんご農家の道具	81.1%	80	53	9	4
	アイヌ民族の文化財を 未来へつなぐ	86.2%	60	71	8	4
巡回展	【科博巡回展】 生命のれきし	84.2%	99	88	8	4
平均		89.1%				

※満足度算定方法：アンケート回答数における「たいへん満足」「満足」の割合で算出。

1.1 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

【年度目標】

- ① 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ② 北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

【事業実績】

- ① 日本博物館協会の北海道支部として、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たした。
- ② 北海道博物館協会（道博協）の事務局を担い、大会・研修会等の開催、『道博協ニュース』の刊行を行うとともに、平成30年台風21号・胆振東部地震を受けて道博協加盟館園の被災状況調査を実施し、道博協ホームページにて公開・随時更新した。

(2) 博物館交流の促進

【年度目標】

- ① 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ② 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ③ 連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。

【事業実績】

- ① 博物館等との交流・連携・協力については合計で31件だった。
前年度までに引き続き、道内外の博物館施設との連携・協力、学会等との連携・協力のほか、平成30年9月には胆振東部地震で被災した博物館施設について、迅速な支援を行った。
- ② 国立科学博物館等と連携し「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」に参画、道内各地で博物館職員を対象とした博物館学系の研修会等を多数開催した。
- ③ 「博物館教育プログラム研修会」を通じて地域のニーズを把握した。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成30年度目標値	平成30年度実績
道内市町村等との連携・協力件数	40件	31件

1.2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】

- (1) 学術情報の集約
- (2) 発信基盤の整備

【年度目標】

(1) 学術情報の集積

- ① 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ② 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(2) 発信基盤の整備

- ① 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等）
- ② 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

【事業実績】

(1) 学術情報の集約

- ① 館の収蔵資料情報の管理・公開の基幹である、収蔵資料データベース（I.B.ミュージアム）への資料情報の登載について、統合時からの遅滞分の解消を進めた。
- ② 関係機関との協議や情報整備などが必要であるが、特段の進捗を見ておらず、引き続き検討すべき課題として残っている。

(2) 発信基盤の整備

- ① 旧道立アイヌ民族文化研究センターのウェブサイト及びアイヌ語アーカイブについては、今年度から2年間の計画で改修・整備に着手し、北海道博物館のウェブサイトにおいてアイヌ民族文化研究センターとしての情報発信を行うため、まず旧北海道立アイヌ民族文化研究センターのウェブサイトについて残すべき項目や内容、削除できる項目の仕分けを行った。
- ② 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定し、新資料番号の項目の設定の検討等、準備を進めた。

判断数値	目標値	実績値
ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数	9件	0件

(2) ICT などを活用した情報発信機能の強化

【年度目標】

- ① 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。
- ② ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。
- ③ ソーシャルメディアについては利用者の反応の分析を行い、発信の仕方を見直すことで情報発信力の一層の強化につなげる。
- ④ ICT ワーキングチームについては、設置要項案を元に部内検討および館内調整を行い、早期発足を目指す。

【事業実績】

- ① 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備を進めた。
- ② ウェブサイトについては、学芸職員の研究実績等の紹介を充実化する改修を行った。ツイッターについては、今年度から企画展チーム、広報担当者等からも発信できる体制を整え、より多様な情報を的確なタイミングで発信できるようにした。
- ③ ソーシャルメディアの利用者反応の分析を行ったが、発信の仕方への反映までは至っていない。
- ④ ICT ワーキングチーム（ICT-WT）は設置しないことが決定した。

ソーシャルメディアへの投稿件数	236件
-----------------	------

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

【年度目標】

- ① 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。
- ② 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し、一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備する。
- ③ 図書の収集・除籍方針を定め、利用見込みのない図書の除籍を進めて書庫利用の効率化を図る。
- ④ レファレンスの記録の実施を呼びかけ、記録率の向上を目指し、集計記録を着実に実施する。

レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みを作る取り組みを引き続き進める。

【事業実績】

- ① 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書や博物館刊行物等を収集した。
- ② 前年度までに引き続き、一般向け蔵書の充実化および配架レイアウトの工夫を進め、一般利用者の利用の促進につながる取り組みを進めた。
- ③ 限られたスペースの中での蔵書の充実化及び書庫利用の効率化を図るため、図書類約 2,000 冊の整理・廃棄を進めた。
- ④ レファレンスの記録率の向上に努め、昨年度 347 件に対し 471 件を記録することができた。館内共有の仕組み作りについては検討を進めている。

来館しない利用者による利用件数の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成 30 年度目標値	平成 30 年度実績
写真の提供件数	70 件	126 件
レファレンス件数	800 件	471 件 うち来館 230 件 非来館 241 件
アンケート、その他の利用件数	100 件	22 件

図書室の利用者数／うち、図書室のみの利用者	3,293 人／うち 37 人
新規登録図書数	152,675 冊
図書室で受け付けたレファレンス	68 件

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】

【年度目標】

博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。

- ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
- ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を定期的に共有し、対応力の向上を図る。

【事業実績】

- ① ホームページ（ウェブサイト）での情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する予定であったが、今年度は新たな情報の拡充には至っていない。
- ② レファレンスは件数の増加傾向が続いており、アイヌ文化に関する照会先としての認知度が、引き続き高まっていると考えられる。また、レファレンス内容の情報の共有と対応力の向上を図り、ほぼ 3 ヶ月に 1 度のペースでレファレンス内容の確認・検討を行った。

判断数値	目標値	実績値
レファレンス件数	100 件	124 件
他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）	4 件	1 件

1.3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

【年度目標】

- ① 博物館実習（館務実習）を夏季に 1 回実施する。
- ② 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ③ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や

研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

【事業実績】

- ① 博物館実習（館務実習）を8月21日～31日（実質10日間）の日程で実施した。
- ② 博物館実習（見学実習）は7件90名を、インターンシップは7件36名を受け入れた。
- ③ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、職員を大学の非常勤講師や講演の講師として派遣した。

		判断数値	目標値	実績値
博物館実習の受入	館務実習	受入件数	4件	1件（15人）
	見学実習	受入件数		7件（90人）
インターンシップの受入		件数	6件	7件（36人）

(2) 外来研究員の受入

【年度目標】

- ・ 引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定類の整備などの検討や他館の現況調査などを行い、制度の枠組みの立案を図る。

【事業実績】

- ・ 引き続き、検討中の状況である。

(3) 派遣研修

【年度目標】

- ・ 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。

【事業実績】

- ・ 北海道博物館協会主催のミュージアム・マネジメント研修や「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」による研修などに職員を参加させた。

判断数値	目標値	実績値
博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	4件	13件

1.4 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

【年度目標】

- ① 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行する。
- ② 研究紀要第3号をウェブサイト上で公開するとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても、必要に応じて著作権等の処理を進め、可能なものから順次公開を進める。
- ③ 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- ④ 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。

【事業実績】

- ① 『北海道博物館研究紀要』『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行した。
- ② 北海道行政情報センターにおける『研究紀要』の有償頒布を、既刊も含めて開始した。
『研究紀要』の第3号をウェブサイト上で公開したが、旧開拓記念館の学術刊行物等は公開には至っていない。
- ③ 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行した。
- ④ 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行した。

特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行	
図録	特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 ー見る、集める、伝えるー」
パンフレット	第 11 回企画テーマ展 「野幌森林公園いきもの図鑑」(平成 30 年 4 月)
	第 12 回企画テーマ展 「りんご農家の道具」(平成 30 年 9 月)
	第 13 回企画テーマ展 「アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ」(平成 31 年 2 月)

(2) 学会への発信

【年度目標】

- ・ 学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について検討を進める。

【事業実績】

- ・ 研究成果の館外への公開・発信については、学会等での発表が 16 件、学術雑誌等への執筆が 34 件、ほかに当館の研究紀要への投稿 18 件であった。

(3) 職員の対外貢献

【年度目標】

- ・ 各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

【事業実績】

- ・ 招待講演等への職員派遣 91 件、各種委員・共同研究員等委嘱 28 件、その他調査協力等・専門的知見の提供 109 件と、様々な形態で積極的な対外貢献を行った。

(4) 外部機関との事業連携

【年度目標】

- ・ 引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。前年度に引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

【事業実績】

- ・ 特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」の開催に際し、民間企業を含む多くの外部機関・組織との連携・協力を行ったほか、多くの外部機関との連携・協働を実施した。

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

【年度目標】

- ① 政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。
- ② 北海道 150 年事業を実施する。
 - ①特別展「幕末維新を生きた旅の巨人—松浦武四郎」（仮）を開催する。
 - ②「北海道百年記念施設」の今後の整備についての政策的な検討を行う。
- ③ 第 2 期中期目標・計画（平成 32～36 年度）の検討を行う。
- ④ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。

【事業実績】

- ① 平成 27 年「新・北海道ビジョン推進方針」の政策に示された「北海道ミュージアム構想」の推進、「北海道 150 年事業」の展開、「赤れんが庁舎の機能向上」と連動した取組を進めた。
- ② ①特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 ー見る、集める、伝えるー」を開催するとともに、総合政策部政策局北海道 150 年事業室と連携して、松浦武四郎関連の取組への専門的知識の提供などを行った。

- ②北海道百年記念施設のあり方は、本庁のガバナンス体制で検討が進められ、12月には「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」が策定された。
- ③ 第2期中期目標・計画については、次年度、具体的な策定作業を進めることとした。
- ④ 道費による研究プロジェクト18課題を実施し、『北海道博物館研究紀要』第4号、『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号の刊行などの研究成果の公表を通して、地域貢献を進めた。

社会貢献の目標値と実績値は、次のとおりである。

設 定 内 容	平成30年度目標値	平成30年度実績
新聞・報道対応の件数	計180件	110件
学会発表の件数		16件
学術雑誌等への寄稿の件数		34件
招待講演の件数		91件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数		28件
その他の件数		33件
		合計312件

(6) アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】

【年度目標】

- 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行する。
- 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。
- 必要に応じて『アイヌ文化紹介小冊子』各巻の増刷を図るとともに、小冊子収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【事業実績】

- 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行した。アイヌ民族文化研究センター職員のうち非常勤を含め4名による原稿8件のほか、4月に余市町で開催した公開研究会の報告原稿1件を掲載した。
- 平成29年度末から30年度当初にかけて実施した第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」において、アイヌ口承文芸に関する研究成果やこれまでに培った専門的知見を反映させた。また、平成31年度以降の展示計画については、これまでの収蔵資料整理の成果を反映させるもの（「地名」展等）や調査研究の成果の反映を見込むもの（「お葬式」展）、展示を契機として従来の研究課題と関連させつつ新たな資料調査の拡充を図るもの（「北海道神宮」展）等の計画策定と検討を進めた。
- 全体的に残部が僅少となっていた『アイヌ文化紹介小冊子』について、1～9巻全冊の増刷を実施した。次年度はこのPDFファイルを当館ウェブサイトにも掲載する予定である。
- 広報紙「森のちゃれんがニュース」の「アイヌ民族文化研究センターだより」のページにおいて、公開研究会や巡回展、アイヌ文化紹介小冊子の改訂増刷など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員の調査研究に関する報告等を発信した。

判断数値	目標値	実績値
「ちゃれんがニュース」の記事数	6件	6件
他機関の機関紙等での記事の掲載数	3件	0件
道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等）	1件	2件

新聞・報道対応件数	1 件	1 件
講演依頼件数	10 件	7 件
各種委員への就任件数	7 件	10 件

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成

【年度目標】

- ① 意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の常時把握などにより協議事項の洗い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のスリム化等を徹底する。
- ② 博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどして文化振興課との連携を強化する。
- ③ 事業の着実な推進を図るため、より実効的な懸案事項の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。
- ④ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関への PR を図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受入体制の整備を進める。

【事業実績】

- ① 運営会議の定期的な開催により課題などの共有化を図った。会議資料のスリム化を図ったが事前配付の徹底は未達成であった。
- ② 運営会議等において、懸案事項の共有化を図るとともに課題解決に向けて本庁と協議し予算の確保のほか、学芸部（兼研究部）に新規採用職員 4 名を配置して欠員を解消し、組織体制の整備を図った。また、平成 30 年度台風 21 号や北海道胆振東部地震の発生による被害（風倒木・歴史的建造物被害等）対策に要する予算の確保や、地震被災地の避難所運営支援として学芸職員を派遣を行った。
- ④ 視察の受入体制については、総務部を窓口として整備した。

(2) 研究センター内の意思決定機関の育成

【年度目標】

アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。

- ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
- ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
- ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

【事業実績】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集方針等の調査研究上の主要な案件について、常勤職員による打合せと並行して、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せも適宜開催し、事業方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。
- ② 週 1 回のペースで研究センターの定例打ち合わせを実施した。ただし、参集できない職員へは、打ち合わせ時の資料配付にとどまり、結論等の共有については実施できていない。
- ③ 学芸部・総務部業務の緊急度・優先度を勘案しつつ研究センターでの会議や研究業務を進めるよう努めてはいるが、研究業務に配分できる時間はなお確保が十分ではない。

(3) 道庁の支援体制の育成

【年度目標】

- ・ 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。

【事業実績】

- ・ 北海道開拓の村の歴史的建造物については、博物館と情報共有しながら、国の地域創生拠点整備交付金を活用した旧龍雲寺、旧若狭家たたみ倉の改修工事を行った。また、旧武井商店酒造部、旧三ツ河本そば屋の補修工事実施設計については、道有建築物修繕の建設部集約化にともない、建設部との協議を実施して進めた。
- ・ 道立自然公園野幌森林公園に所在する百年記念施設（北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔）及びその周辺地域について、「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」を策定した。
- ・ 平成 31 年度を始期とする「次期指定管理者」（平成 31～34 年度）について、博物館や関係課と連携して公募を行い、決定した。
- ・ 地域創生関連事業に係る予算を確保した。

【別添資料】

平成 30 年度アイヌ民族文化研究センター
事業実績（抜粋）

1 展示事業

1) 総合展示

【年度目標】

以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化 Q&A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替え

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入れ替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。
- ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。

【事業実績】

- ① 総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」におけるクローズアップ展示3、4で計6回の展示を実施し、シリーズ化した展示テーマを設け、内容の充実に取り組んだ。

展示シナリオ及び資料の事前検討については、おおむね期日に即した検討を実施した。

- ② 更新準備はほぼ整えており、8月には博物館実習の課題に採り入れる等の活用も試みたが、実際の更新はなお来年度の課題である。

- ③ 総合展示資料の定期的な入替えは、衣服及び関連資料等（3～6か月毎）、筆録ノート、レコード等（1年毎）、装身具・祭具等（その他）に区分し、計画的に実施することとしたが、今年度は一括して計8件の入替えを実施した。

iPadを利用した、衣服を紹介する展示は、写真の調達と機器の設置に向けた準備を進めた。

判断数値	目標値	実績値
① クローズアップ展示	(クローズアップ展示3、4 各3回)	6回 (各3回)
② アイヌ文化 Q&A	更新年間4回 (質問8件)	0回
③ 総合展示資料入替	計6回	計3回(8件)
・ 衣服及び関連資料	4回	1回(4件)
・ 装身具・祭具等	1回	1回(2件)
・ ノート等	1回	1回(2件)

2) 企画展等

【年度目標】

- ① 平成31年度以降の企画テーマ展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ② 既にテーマを定めている「地名から見える北海道(仮)」については、北海道命名150年の翌年であり、象徴空間開設の前年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

【事業実績】

- ① 平成30年4月8日まで開催した第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」では、冬季の企画テーマ展としては比較的多くの来場者を得て、満足度も90%を超えた。

- ・館内における平成 31、32 年度の企画展示の策定に当たり、アイヌ文化が軸となるテーマやアイヌ文化を柱の一つとするテーマを提案し、計画案に反映させることができた。
- ② 平成 31 年開催予定の展示会は「北の手仕事（仮）」「アイヌ語地名と北海道（仮）」とそれぞれテーマを定め、計画を策定し、出展者との調整や開催要項の策定等の準備を着実に進めた。

判断数値	実績値
第 10 回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」の来場者数	7,250 人
第 10 回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」の満足度	97.1%

※全開催期間（平成 30 年 2 月 2 日～4 月 8 日）を通しての実績

3) 巡回展

【年度目標】

- ・平成 30 年度の巡回展を開催し、平成 31 年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成 29 年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

【事業実績】

- ・第 4 回アイヌ文化巡回展を上川町（層雲峡）で、第 5 回アイヌ文化巡回展を標津町で、いずれも「地名」をテーマに開催した。
平成 31 年度以降の開催計画については、候補地があるものの、策定は今後の課題である。

巡回展名称	実績	
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名調査資料から～ 2018 層雲峡	平成 30 年 8 月 21 日～9 月 30 日	8,792 人
【巡回展】 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名調査資料から～ 2018 標津	平成 30 年 10 月 6 日～10 月 21 日	2,164 人

判断数値	目標値	実績値
巡回展の満足度	回答者数 71 人/ 96.6%	回答者数/188 人 94.3%

2 調査研究事業

【年度目標】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の 2 つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ② 平成 29 年度で終了した個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ③ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ④ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【事業実績】

- ① 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」を、それぞれの個別課題に沿って進め、計 4 件の成果を発表した。
- ② 平成 29 年度で終了した個別課題については、成果を踏まえたうえで新たな課題を設定した。

- ③ アイヌ文化研究において内在する課題と海外共同研究との整合性や棲み分けなど、引き続き問題が残っているが、アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民族との関わりのあり方について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地域差等に関する実物資料や伝承の比較等の課題の検討も始まっている。
- ④ 日本学術振興会科学研究費補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員が研究代表者として獲得した件数は3件となった。また、サントリー文化財団の助成金（平成29年8月～平成30年7月）による調査研究では、4月に余市町において公開研究報告会「余市のアイヌ文化を考える」を開催し、また引き続き平成31年7月までの助成を獲得した。

アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（4課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究（29～34年度） ・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究（24～31年度） ・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査（26～30年度） ・道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部（28～31年度）

アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（4課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究（28～31年度） ・教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代（28～31年度） ・アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（28～31年度） ・アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）（26～31年度）

「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州） ・寒冷地の自然と適応－博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究－（カナダ・アルバータ州）

判断数値	目標値	実績値
各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数		
①アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト	研究課題 4 件	4 件
②アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト	研究課題 4 件	4 件
③海外博物館等との共同研究プロジェクト	研究課題 2 件	2 件
成果発表の目標値	①②③併せ計 4 件	4 件
科研等の補助金件数	4 件	3 件

3 資料・情報の収集・整備事業

【年度目標】

- ① 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成31年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ② 平成28年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ③ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

【事業実績】

- ① 統合・リニューアル時に未整理であった旧北海道開拓記念館資料の整理・登録については、平成29年度までに取り急ぎ受入準備を整えたものを登録し、今年度は館の資料収蔵データベースへの登載にも着手したが、なお未整理のものが多く残されている。
旧道立アイヌ民族文化研究センター資料については、今年度から職員採録資料について、北海道博物館資料番号の付与や館蔵資料データベースへの登載等に着手した。また、実質的な整理作業が未着手であった民具資料について、平成29年度までに大まかな内容点検を行い、今年度から整理・登録作業に着手した。

- ② 原資料がオープンリールテープ等のアナログ音声資料であることから、今年度は先ずデジタル化による保存に着手しており、次年度以降も継続して保存・整理作業を進める。
- ③ 研究プロジェクトや巡回展と計画的に関連づけた調査・収集はあまり実施できなかったが、調査研究や資料整理の中で新たに幾つかの貴重な資料の所在を確認できた例があった。

判断数値	目標値	実績値
新たに登録する資料の件数(=未処理のままの資料の残数の段階的解消)	2 資料群	0 件
収集した資料の件数	4 件	2 件
資料の所在調査等の実施件数	10 件	21 件

4 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

【年度目標】

- ① 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ② 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

【事業実績】

- ① 資料の採録から公開までの手続きに関する要領に基づき、職員採録資料 5 点の公開準備を進めた。
- ② 公開計画の再確認と年間の公開点数の再検討を予定していたが、実施に至っていない。

公開した資料件数		0 件※
資料閲覧件数	全体	27 件
	文書	11 件
	音声・映像	6 件
	民具	7 件
	その他	3 件

※ ただし H31 年度公開に向け 5 点の公開用資料を H30 年度中に作成した。

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約

(2) 発信基盤の整備

【年度目標】

(1) 学術情報の集積

- ① 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ② 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(2) 発信基盤の整備

- ① 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する(ウェブサイト上でのページコンテンツの設定等)
- ② 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

【事業実績】

(1) 学術情報の集約

- ① 館の収蔵資料情報の管理・公開の基幹である、収蔵資料データベース (I.B.ミュージアム) への資料情報の登載について、統合時からの遅滞分の解消を進めた。
- ② 関係機関との協議や情報整備などが必要であるが、特段の進捗を見ておらず、引き続き検討

すべき課題として残っている。

(2) 発信基盤の整備

- ① 旧道立アイヌ民族文化研究センターのウェブサイト及びアイヌ語アーカイブについては、今年度から2年間の計画で改修・整備に着手し、北海道博物館のウェブサイトにおいてアイヌ民族文化研究センターとしての情報発信を行うため、まず旧北海道立アイヌ民族文化研究センターのウェブサイトについて残すべき項目や内容、削除できる項目の仕分けを行った。
- ② 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定し、新資料番号の項目の設定の検討等、準備を進めた。

判断数値	目標値	実績値
ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数	9件	0件

(3) 学習・伝承活動への支援

【年度目標】

博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。

- ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
- ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を定期的に共有し、対応力の向上を図る。

【事業実績】

- ① ホームページ（ウェブサイト）での情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する予定であったが、今年度は新たな情報の拡充には至っていない。
- ② レファレンスは件数の増加傾向が続いており、アイヌ文化に関する照会先としての認知度が、引き続き高まっていると考えられる。また、レファレンス内容の情報の共有と対応力の向上を図り、ほぼ3ヶ月に1度のペースでレファレンス内容の確認・検討を行った。

判断数値	目標値	実績値
レファレンス件数	100件	124件
他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）	4件	1件

5 成果の普及事業

1) 教育普及

【年度目標】

- ① 前年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ② グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【事業実績】

- ① 平成30年度に研究センター職員が館で実施した講座・ワークショップ・ミュージアムトーク等の教育普及事業は7件（このほか平成30年9月の胆振東部地震による臨時休館等に伴う中止が1件）であった。
アイヌ文化巡回展関連講座は今年度は実施しなかったが、巡回展は2ヶ所（層雲峡、標津町）で実施し、アンケート結果でも満足度が高かったことから、普及事業としての巡回展は一定の効果を上げることができたと考えられる。
- ② アイヌ文化関連のグループレクチャーの件数は昨年度より増加しており、かつ、館全体とし

での増加傾向を上回る割合での増加となっているが、内容については、グループ全体での検討や情報共有の機会はとくに設けられなかった。

判断数値	目標値	実績値
グループレクチャーの実施件数	アイヌ関係 35 件	44 件
はっけんプログラムの実施件数	アイヌ関係 125 件	145 件
上記以外に行った館内イベント件数	0 件	0 件

2) 研究成果の提供

【年度目標】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行する。
- ② 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。
- ③ 必要に応じて『アイヌ文化紹介小冊子』各巻の増刷を図るとともに、小冊子収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ④ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【事業実績】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号を刊行した。アイヌ民族文化研究センター職員のうち非常勤を含め4名による原稿8件のほか、4月に余市町で開催した公開研究会の報告原稿1件を掲載した。
- ② 平成29年度末から30年度当初にかけて実施した第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」において、アイヌ口承文芸に関する研究成果やこれまでに培った専門的知見を反映させた。また、平成31年度以降の展示計画については、これまでの収蔵資料整理の成果を反映させるもの（「地名」展等）や調査研究の成果の反映を見込むもの（「お葬式」展）、展示を契機として従来の研究課題と関連させつつ新たな資料調査の拡充を図るもの（「北海道神宮」展）等の計画策定と検討を進めた。
- ③ 全体的に残部が僅少となっていた『アイヌ文化紹介小冊子』について、1～9巻全冊の増刷を実施した。次年度はこのPDFファイルを当館ウェブサイトにも掲載する予定である。
- ④ 広報紙「森のちゃれんがニュース」の「アイヌ民族文化研究センターだより」のページにおいて、公開研究会や巡回展、アイヌ文化紹介小冊子の改訂増刷など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員の調査研究に関する報告等を発信した。

判断数値	目標値	実績値
「ちゃれんがニュース」の記事数	6 件	6 件
他機関の機関紙等での記事の掲載数	3 件	0 件
道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等）	1 件	2 件
新聞・報道対応件数	1 件	1 件
講演依頼件数	10 件	7 件
各種委員への就任件数	7 件	10 件

6 その他

【ガバナンス態勢の育成】

研究センター内の意思決定機関の育成

【年度目標】

アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。

- ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
- ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
- ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

【事業実績】

- ① 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集方針等の調査研究上の主要な案件について、常勤職員による打合せと並行して、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せも適宜開催し、事業方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。
- ② 週1回のペースで研究センターの定例打ち合わせを実施した。ただし、参集できない職員へは、打ち合わせ時の資料配付にとどまり、結論等の共有については実施できていない。
- ③ 学芸部・総務部業務の緊急度・優先度を勘案しつつ研究センターでの会議や研究業務を進めるよう努めてはいるが、研究業務に配分できる時間はなお確保が十分ではない。